

SHIRAKOBATO

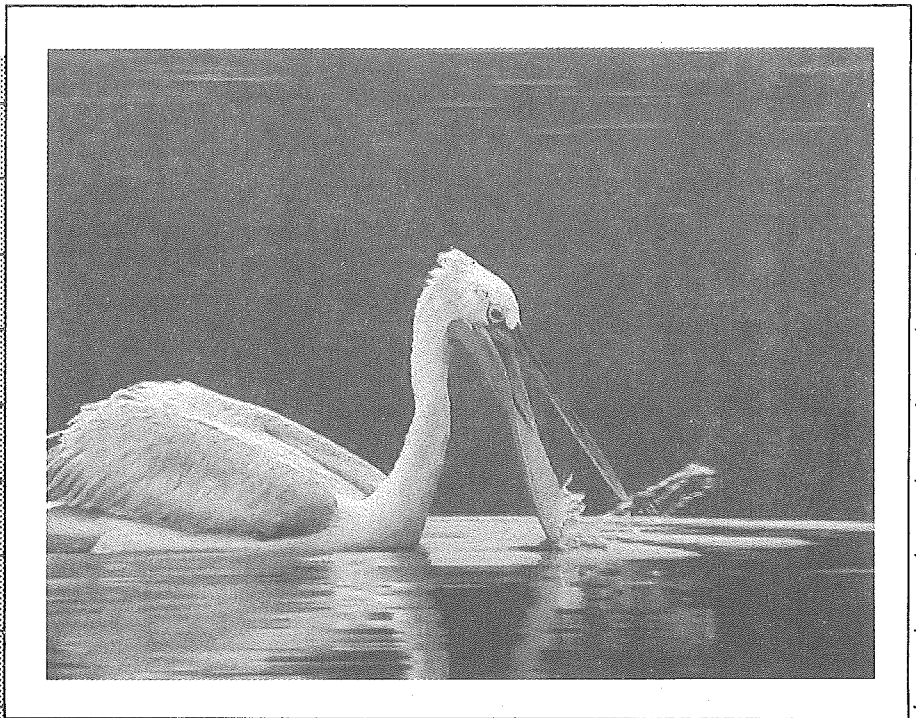
しらこぼと



1999. 2

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 178

日本野鳥の会 埼玉県支部

切手でバードウォッチング

橋口長和（春日部市）

バードウォッチングを趣味にしていると、知らず知らずのうちに鳥グッズが集まってきます。私の場合、その収集物の中に切手があります。そこで今月号は、切手でバードウォッチングしてみました。

●日本の鳥切手

日本での切手の歴史は、明治4年に郵便制度が実施された時から始まります。1981年4月20日（新暦）に発売された『竜文切手』と呼ばれる普通切手（普段郵便料金を支払うために使用する切手）がその始まりになりました。

その4年後の1875（明治8）年には、国際郵便の開始にあたり、その料金用に『鳥切手』が発行され、これが、国産鳥類切手の第1号となりました。『鳥切手』は、「カリ（12銭）」「セキレイ（15銭）」「タカ（45銭）」の3種類です。

それ以後、終戦まで鳥のデザインされた切手は、1919（大正8）年世界大戦終結で発行された記念切手に白鳩がデザインされただけで、鳥切手には不毛の50年間が経きました。

●平和になると鳥切手がふえる？

終戦の翌年1946年発行された普通切手に北斎の「落雁図」が採用され、その後、尾長鶏、オシドリ、ヤマドリ、キジ、タンチョウヅル、イヌワシと昭和普通切手は続きました。

平成に入って様相は一変します。郵政省に好き者がいたのか、オシドリ、メジロ、キジバト、シジュウカラ、ヤマガラ、ヤマセミ、カルガモ、コチドリ、モズ、ウソ、イカル、カケス、スズメ、セキセイインコ、タカSPと、どこかの探鳥会記録と思われるような種類の普通切手が次々に発行されました。



●図鑑と見間違える記念切手の出現

記念・特殊切手は、デフォルメされた鳥や日本画をデザインした切手が多かったのですが、1960年5月27日『第12回国際鳥類保護会議』を記念して発行されたトキから、カラー化された図鑑的イラストが採用されるようになりました。

1963年から64年にかけてルリカケス、ライチョウ、キジバト、コウノトリ、ウグイス、ホオジロの6種が「鳥シリーズ切手」として発行されました。デザインにはまだウグイスに梅の花などがあしらわれており、一般受けを狙っています。

1975年から76年にかけては「自然保護シリーズ・鳥類」としてアホウドリ、タンチョウヅル、ハハジマメグロ、アカヒゲの4種が発行、図鑑に載せても遜色なしのデザインになりました。

シリーズものとして他に、「特殊鳥類シリーズ（1983～84年）」10種、「水辺の鳥シリーズ（1991～93年）」16種があり、揃えてみると結構豪華です。

記念切手としては、自然保護に関する条約締結時や国土緑化運動などに発行されるものに鳥が多く出ます。1996年5月10日には「第50回愛鳥週間」を記念してバードウォッチングそのものがとうとう切手になりました。

●鳥と探鳥地の切手

1989年から、各都道府県を受け持つ地方郵政局管内で「ふるさと切手」が発行されるようになりました。その中に有名景勝地に馴染みの深い鳥を組み合わせたデザインの切手があります。「伊豆沼とハクチョウ」、「鳳来寺山とコノハズク」、「富士山とサンコウチヨウ」、「二見浦とシロチドリ」などです。

わが「シラコバト」は、埼玉ふるさと切手 Walking Festival, Saitama (1997.10.28) にサクラソウと組み合わせられ、デザインされています(鳥見屋としては一言申し上げたいデザインですが)。

●日本産鳥類切手リスト

最後に、日本野鳥の会埼玉県支部、鳥類切手記録委員会(只今、委員募集中)がまとめた『日本産鳥類切手リスト』を発表します。

1998年3月20日時点で発行されている切手で、同一デザインで額面が違うものは1回としてカウントしています。また、戦前の統治領や返還前の沖縄で発行された切手はカウントしていません。

・会員の皆さんも、貴方のコレクションを紹介してみませんか。楽しみにしております。

参考文献：さくら日本切手カタログ1999

日本産鳥類切手リスト

1999年1月末現在

No	鳥名	初認時期	出現数	筆者get	No	鳥名	初認時期	出現数	筆者get
1	アカガシラカラスバト	1984. 3. 15	1	○	44	シマフクロウ	1983. 9. 22	1	○
2	アカシヨウビン	1992. 8. 31	1	○	45	シラコバト	1997. 10. 28	1	○
3	アカヒゲ	1976. 2. 27	1	○	46	シロチドリ	1994. 7. 22	1	○
4	アデリーペンギン	1971. 6. 23	1	○	47	スズメ	1997. 4. 10	2	
5	アホウドリ	1975. 1. 16	1	○	48	セキセイインコ	1997. 12. 1	1	
6	アマサギ	1993. 1. 29	1	○	49	ダチョウ	1995. 7. 21	1	
7	イカル	1992-	1	○	50	タマシギ	1992. 3. 25	1	○
8	イヌワシ	1972-	1		51	タンチョウヅル	1953. 10. 12	10	○
9	ウグイス	1964. 2. 10	2	○	52	ツバメ	1992. 5. 15	1	○
10	ウソ	1992-	1	○	53	トキ	1960. 5. 24	2	○
11	ウミウ	1952-	2	○	54	トビ	1976. 10. 6	1	
12	ウミネコ	1965. 7. 20	2	○	55	トモエガモ	1993. 5. 25	1	○
13	エトビリカ	1992. 1. 30	1	○	56	ナベヅル	1992. 1. 30	1	○
14	オオジシギ	1991. 6. 28	1	○	57	フグチケラ	1983. 11. 25	1	○
15	オーストンアカゲラ	1984. 6. 22	1	○	58	ハハジマメグロ	1975. 8. 8	1	○
16	オオセッカ	1984. 1. 26	1	○	59	ホオジロ	1964. 5. 1	1	○
17	オオハクチョウ	1992. 3. 25	1	○	60	ホトトギス	1952-59	3	○
18	オオミズナギドリ	1992. 8. 31	1	○	61	マガン	1993. 3. 31	1	○
19	オシドリ	1952-59	3	○	62	マナヅル	1993. 3. 31	1	○
20	オジロワシ	1993. 5. 25	1	○	63	メジロ	1992-	1	○
21	カイツブリ	1991. 9. 27	1	○	64	モズ	1986. 5. 9	2	
22	カケス	1992-	1	○	65	ヤマガラ	1948. 10. 1	2	
23	カササギ	1987. 5. 23	1	○	66	ヤマセミ	1992-	1	○
24	カツオドリ	1991. 6. 28	1	○	67	ヤマドリ	1961-	2	
25	カモメ	1982. 7. 23	1	○	68	ヤンバルクイナ	1983. 9. 22	1	○
26	カラフトオオアシシギ	1984. 3. 15	1	○	69	ライチョウ	1963. 8. 10	3	○
27	カルガモ	1992-	1	○	70	ルリカケス	1963. 6. 10	1	○
28	カワセミ	1993. 1. 29	1	○	未 確 認 種				
29	カンムリワシ	1984. 1. 26	1	○	71	カモsp	1977. 10. 6	1	
30	キジ	1950. 1. 10	2		72	カラスsp	1990. 5. 1	1	
31	キジバト	1950. 1. 10	3	○	73	ガンsp	1875. 1. 1	5	
32	キビタキ	1996. 5. 10	2	○	74	キツツキsp	1997. 10. 6	1	
33	クジャク	1975. 10. 6	1		75	セキレイsp	1875. 1. 1	1	
34	クマガヤ	1995. 11. 21	1	○	76	タカsp	1875. 1. 1	3	
35	コウテイペンギン	1957. 7. 1	1	○	77	ツルsp	1980. 10. 6	1	
36	コウノトリ	1964. 1. 10	2	○	78	ツバメsp	1990. 7. 23	1	
37	コチドリ	1992-	1		79	ハクチョウsp	1990. 10. 1	1	
38	コノハズク	1992. 10. 15	1	○	80	ハトsp	1919. 7. 1	8	
39	コブハクチョウ	1967-	1		81	フクロウsp	1973. 9. 18	3	
40	サンコウチヨウ	1993. 6. 23	1	○	82	鶏	1973. 10. 6	2	
41	シジュウカラ	1971. 5. 10	2	○	83	尾長鶏	1951-	1	
42	シジュウカラガン	1983. 11. 25	1	○	84	小鳥	1984. 7. 23	4	
43	シマハヤブサ	1984. 6. 22	1	○	85	鳥	1946. 12. 12	5	

(C) 日本野鳥の会埼玉県支部・鳥類切手記録委員会

※ 筆者の主観により集計しましたので、多少の見落としはご容赦ください。

※ 初認時期→発行日、出現数→デザイン使用回数、筆者get→切手を入手

浦和山下山口新田、間宮神社周辺、川口市行衛周辺 ◇11月5日、ツルシギ、ハマシギ各

1羽。6日、コハクチョウ3羽上空通過。

7日、コハクチョウ8羽。11日、カンムリカイツブリ。23日、ウソ♀1羽。12月1

日、クイナ、カケス、アリスイ、アカゲラ、イソシギ、タヒバリ各1羽。2日、カ

ワセミ1羽。4日、ツリスガラ多数。8

日、ミコアイサ♀1羽。9日、ミコアイサ

♀2羽。10日、タゲリ20羽。11日、コハク

チョウ3羽、上空通過。トラフズク3羽。

14日、ベニマシコ♀1羽。19日、オオタ

カ、チョウゲンボウ各1羽。24日、シロハ

ラ、アカハラ各1羽。25日、オオタカ、ノ

スリ各1羽、ツリスガラ多数。29日、ア

リスイ1羽、ツリスガラ（新井勇吉）。◇12

月13日、芝川第一調節池でベニマシコ、カ

ワセミ各1羽（星崎杉彦）。

川本町荒川明戸堰上流 ◇11月8日、コハク

チョウ38羽。ツグミ約100羽、大挙渡来し

たばかりのようで、群れをなして飛び回っ

ていた。オオタカ1羽、明戸堰の15~20m

上流の砂地に降りて盛んに水を飲んでい

た。ノスリ1羽、コゲラ4羽。◇11月

21日、イカルチドリ2羽、タヒバリ1羽、

アオゲラ♂1羽、シメ8羽、オオタカ1

羽、トビ2羽（後藤康夫）。

本庄市利根川坂東大橋下流 ◇11月14日、カ

ワアイサ1羽、スズガモ1羽、オカヨシガ

モ、タゲリ18羽、チョウゲンボウ3羽、オ

オジュリン6羽、シメ1羽、カシラダカ1



シロハラ（編集部）



カワセミ（武藤健二）

羽。12月6日、カワアイサ13羽、ヨシガモ8羽、ハマシギ約80羽、チョウゲンボウ2羽（後藤康夫）。

浦和市秋ヶ瀬 ◇11月15日、ピクニックの森

でミヤマホオジロ♀1羽。12月20日、アカ

ゲラ♂1羽、アカハラ、シロハラ各数羽

（星崎杉彦）。◇12月13日、ピクニックの

森でアオゲラ1羽（渡邊光行）。◇12月15

日午後4時頃、北側耕地でコミミズク2羽、

ハイイロチュウヒ♀1羽、チョウゲンボウ

2羽（志村佐治・美月）。◇12月30日、ピ

クニックの森の池の畔でツグミを襲った直

後のチュウヒが10m先のヨシの中から突然

近くの樹上に飛び立った。そこを2羽のハ

シプトガラスがモビング。しかし、意に介

さず。しつこいチョッカイに時々反撃。そ

の内、厭気をさして飛び去った。アリスイ

1羽、木々の間を飛び移っていた（大友慎

也）。

東松山市都畿川 ◇11月15日、稲荷橋周辺で

イカルチドリ9羽、クサシギ1羽、シメ2

羽（後藤康夫・喜久子）。

坂戸市城山 ◇11月16日、山中の2ヶ所でシ

ロハラ4羽（増尾隆・節子）。

所沢市柳瀬川 ◇11月18日、オシドリ。気配

ですぐ隠れてしまったので、♂3羽♀1羽

までしか確認できなかったが、今年も来て

くれてありがとう、という思いです。あの

汚れた川にあの色、ちょっとかわいそう

（小林茂・ますみ）。

深谷市仙元山公園 ◇11月22日、キクイタダ

キ2羽、ビンズイ3羽、アカゲラ2羽、シロハラ3羽、シメ、カケス、ツグミ、アオジ、カシラダカ。冬鳥は、ほぼ揃ったようだが、それにしてもヒヨドリが多すぎる(新井巖)。

狭山丘陵いきものふれあいの里センター ◇11月22日、ルリビタキ成鳥♂1羽、若鳥と思われる♂1羽、♀1羽初認。1羽が木の上でさえずっていた(小林茂・ますみ他1名)。◇11月25日、キクイタダキの小群。隣接のゴルフ場の池でカワセミ2羽、約11ヶ月ぶりの出現(小林ますみ)。◇11月27日、ルリビタキ。隣の荒幡富士周辺と合わせて6~7羽。内3羽の成鳥♂を確認し、大感激(小林ますみ他1名)。

坂戸市高麗川鶴舞地区 ◇11月27日、河川敷の雑木林でベニマシコ♀1羽。中洲にイカルチドリ2羽、タヒバリ2羽、水辺でカラヒワ約50羽が並んで水を飲んでいた。カワセミ♂1羽(増尾隆)。

坂戸市入西 ◇11月29日、田んぼに降りているドバトの群れにチョウゲンボウ♂が襲いかかる。これをハシボソガラスが追撃。チョウゲンボウは、逃げて鉄塔の上に。狩りは失敗したが迫力のシーンでした(黒木明雄、増尾隆・節子)。

戸田市道満彩湖とその周辺 ◇12月2日、北部の葦原でチュウヒ♀1羽。荒川本流上流より秋ヶ瀬方面へ低空でオオタカ1羽。彩湖西岸でベニマシコ♂1羽。道満公園池でオオバン2羽(陶山和良)。

北本自然観察公園 ◇12月3日、北里の池でヨシガモ♂1羽、オシドリ♂3羽(小林ますみ)。12月6日、ヤマガラ、シジュウカラの混群。ルリビタキ♀1羽。東屋で昼食

中ベニマシコの声が出た。昼食後ベニマシコを探していると、目の前に♂がちょうど見やすい所に2羽現れました。1羽の方が赤みが強いことなど、興奮気味に観察しました。(小林ますみ他1名)。

志木市志木市営グラウンド ◇12月6日、アトリ9羽(志賀敢)。

鴻巣市糠田排水機場 ◇12月6日、クサシギ、カワセミ、タシギ各1羽。タシギ、クサシギは毎年越冬しているようです(石井智)。

寄居町玉淀湖 ◇12月6日、オシドリ約200羽、ヤマセミ1羽(後藤康夫)。12月12日、イカル12羽、ムクの実を食べていた。エナガ15羽。オオタカ1羽、カラスを追いかけていた。ヤマセミ♂1羽、オシドリ約200羽。カモの種類は少ないが、オシドリ200羽は壮観だ(後藤康夫・喜久子)。

川越市伊佐沼 ◇12月12日、ミコアイサ♂3羽♀1羽(福田英子)。

三郷市江戸川 ◇12月14日、JR武蔵野線鉄橋下流付近でカワセミ♂1羽、アカハラ1羽、ベニマシコ♀1羽(岩瀬和志)。

富士見市柳瀬川左岸 ◇12月15日、東水谷小学校前でタゲリ35羽、チョウゲンボウ2羽、タヒバリ5羽(志村佐治・美月)。

浦和市大谷本郷 ◇12月31日、ゴルフ練習場の植木畑でルリビタキ♀1羽、竹林でトラツグミ1羽、雑木林でアカハラ1羽、シロハラ1羽、鴨川べりの小さなヨシ原でベニマシコの番いがセイタカアワダチソウの実をついばんでいた(大友慎也)。

深谷市仙元山公園 ◇1月1日、ミヤマホオジロ♀2羽、オオタカ1羽(新井巖・文子)。

上尾市上尾南中学校付近 ◇1月2日、田んぼでタゲリ3羽(大友慎也)。

表紙の写真

ハイロペリカン (ペリカン目ペリカン科)

翼開長3mを越す最大のペリカン。イラン高原などアジアの一部で繁殖し、冬は周辺に分散する。ワシントン条約付属書Iに、絶滅のおそれがある種としてリストアップされている。日本にはまれに迷行する。

そんな鳥が茨城県潤沼に滞在中と聞いて、1月15日、S氏の車に乗便してでかけた。なにしろデカイ。近くでうろろしているカムリカイツブリなどが小鳥のように見える。海老原美夫(浦和市)

10月24～25日・戸隠飯綱高原探鳥会
鈴木紀雄（春日部市）

100パーセントの雨を覚悟して長野駅に集合、マイクロバスで飯綱高原へ。なんと青空がのぞき、結局好天になってしまった。

林間ではコガラ、エナガ、シジュウカラ、ゴジュウカラなどの混群やアトリの群れ、アカゲラが出現。別荘地では、木の実に群れているツグミに「お帰りー」の声。湿原ではノジコ、アオジなど。大座法師池は鳥影が少なく、一昨年まで来ていたハジロカイツブリもいない。バスで鏡池に移動。ここから見る戸隠の山容は見事！

ハイキングコースに入り、広葉樹にからまるツルマサキの赤い実を探す。この実に、マミチャジナイやムギマキが来るとのこと。ところが、実りも悪いし、まだ木の葉が落ちていなくて見通しも悪い。やはり気候が変だからなあ。

翌朝は6時頃から宿周辺を回る。林内は鳥が少なく、見たかったアオゲラも、ピョーの一声だけ。でも、開けた所でニューナイズメを発見。アオバト7羽の飛翔もバッチリ見られた。

昨日と逆に好天のはずが雲行き怪しく、小雨が降り出す。

みどりが池で数百羽のアトリの群れを見たものの、随神門までは鳥がほとんどいなくて、暗澹たる気分になってくる。ところが、そこから100メートル程、ささやきの小道を進むと、ツルマサキにたくさんの鳥が。やったー!! マミチャジナイの群れだ！ アカハラ、シロハラなども道の両脇の笹やぶから次々に飛び出す。

牧場手前数百メートルでは、ツルマサキの近くについにムギマキのメスを発見。白い眉に濃橙色の胸。近くにはキビタキのメスも。意気揚々となって、牧場で、宿が用意してくれたキノコ汁を味わった。

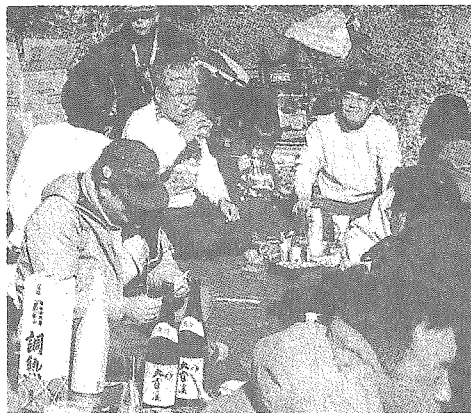
昼食後、ミソサザイ、上空になぜかミサゴが出現。ラストはムギマキのメスタイプ、キビタキのオス、ジョウビタキのオス若と、旅鳥夏鳥冬鳥同時に見られ、まさに逆転ホームラン探鳥会となったのだ。

お知らせ

聞くは一時の恥、とは言っても、その一時が耐えられず、やっぱり聞けないあの疑問。輝かしいトリ歴を積み重ね、みんなからベテランと呼ばれている人ほど、誰にも聞けない疑問に悩まされているのでは？ そんな方のために<今さら聞けない質問コーナー>を始めます。鳥に関する疑問を始め、日本野鳥の会や県支部の活動、野外でのマナー等についての質問もOK。日頃の？を、恥ずかしがらずにまずはおたずね下さい。その質問、恥ずかしいどころか、実は全バードウォッチャー共通の悩み、永遠の謎かもしれませんよ。

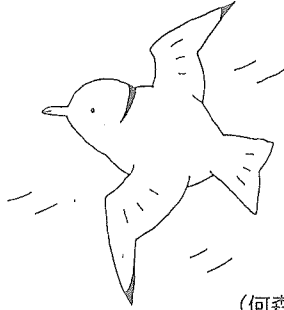
▷質問、住所、氏名を書いて郵便、Faxかeメールで事務局へ。電話不可。このコーナーに限って匿名OKとしますので、希望者はその旨お伝え下さい。▷解答は『しらこぼと』誌上で。原則として個人的に返答はできません。編集部の手余る難問については、皆様から解答も募集します。こちらの方もよろしくお願いします。

Q：図鑑を見ると、関東地方ではヒクイナは夏鳥、クイナは冬鳥になっています。ということは、見るからに飛ぶのが苦手そうなあの連中も渡りをするんですね。いったい、どういうコースをどれぐらいの時間で移動するのでしょうか。クイナ類の渡りについて何か教えて下さい。（鳥になるならゼッタイ留鳥！の主婦）



1月3日さざ山公園探鳥会後の懇親会

行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

◆2月7日(日) 蓮田市異浜沼探鳥会については1月号をご覧ください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月7日(日)

集合：午前8時30分、北本自然観察公園駐車場。または午前8時15分、高崎線北本駅改札口。集合後タクシーで現地へ。リーダーの指示で分乗してください。

担当：岡安、内藤、橋本、大坂、立岩、永野(安)、永野(京)、川那部、島田、山田、高(剋)、高(文)

見どころ：年が明けたと思ったらもう立春。気の早いヒバリがさえずるかもしれません。ここは北国の鳥たちにとって過ごしやすい越冬地だったでしょうか。暮らしぶりにも目をむけた観察を！

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：2月7日(日)

集合：午後2時50分、浦和市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗場、東川口駅北口行14:22発に乗車、念仏橋下車。

解散：午後5時ごろ、現地にて

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、工藤、笠原、吉岡(洋)、若林、倉林、松堂、前澤

見どころ：芝川調整池周辺を巡り、越冬中のカモ類やアシ原に潜む小鳥たちを探し

てみましょう。12月にはツリスガラがいました。そのほか大物がいる可能性もある恒例の夕方探鳥会です。冷え込む時間帯ですので防寒はしっかりと。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月11日(木・祝)

集合：午前7時30分 丸山公園北口駐車場

交通：JR高崎線上尾駅西口5番バス乗り場より、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:07発にて「前原」下車、徒歩約10分。

解散：午前11時ころ

担当：浅見(健)、大坂、浅見(徹)、丹、阿久沢、永野(安)、永野(京)、高(剋)、高(文)、宇原

見どころ：早朝の身も引き締まる寒さの中、鳥たちの暮らしぶりをそっと観察してみましよう。足下の植物はもう春の準備をしていることでしょう。荒川を望む土手でタゲリの群れやノスリに会えるといいですね。

大宮市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月13日(土)

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入口前(土呂駅東口より徒歩5分)。

担当：浅見(徹)、工藤、櫻庭、藤原(寛)、森、松永、日根、山口

見どころ：市民の森東側を流れる芝川沿いと、周辺の見沼たんぼで冬鳥たちを探

します。定例探鳥地三室の約7km上流になりますが、鳥相は若干異なるようです。カモ類6種、バン、オオジュリンなどに期待。クイナがでたら超ラッキー。

静岡県・伊豆高原探鳥会（要予約）

期日：2月13日（土）～14日（日）
定員に達しましたので締切りました。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月14日（日）
集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車。
担当：和田、森本、中島（章）、石井（博）、松本、中里、高橋
見どころ：冬真盛り。フィールドには人影も少なく探鳥には絶好の季節です。葉が落ちた林は寂しいものですが、カラ類のほか、アカゲラ、アオゲラ、コゲラなどがよく見えます。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：2月14日（日）
集合：午前9時 JR高崎線深谷駅南口ロータリー
担当：小池、小淵、小野沢、倉崎、堀
見どころ：小さな公園でも、カラ類、ケラ類、キクイタダキ、シロハラ、ビンズイなどが越冬しています。身近な里山ウォッチングをご一緒にどうぞ。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月18日（木）
集合：午前9時20分 彩湖グリーンパーク駐車場
交通：京浜東北線南浦和駅西口3番バス乗り場より8:43発「下笹日」行き（武蔵野線武蔵浦和駅8:51発）にて「彩湖道満グリーンパーク」下車。
担当：櫻庭、中村（榮）、藤掛、志村、高（文）
見どころ：平日探鳥会第2弾！ 公園の池で

はバン、オオバンなど。彩湖では3種のカイツブリ、カワアイサ、それに多くのカモたちと盛り沢山。空にはオオタカ、ハヤブサ、ハイイロチュウヒなどの猛禽類が楽しめます。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：2月21日（日）
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口。集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、倉林、若林、岡部、兼元、森、清水、前澤
見どころ：早春の装いを見せてくれる見沼たんぼ。代用水の斜面に、オオイヌノフグリやホトケノザの可憐な花が小さな春を告げ、ウグイスの笛鳴き、アオジの地鳴きも聞こえてきます。春の囁きを感じに三室にお出で下さい。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月21日（日）
集合：午前9時40分 森林公園南入口前
交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:17発バスに乗車。
費用：入園料400円（子供80円）
担当：内藤、佐久間、岡安、藤掛、青山、島田、喜多、後藤
見どころ：冬の森林公園第3弾、とは言っても春はもうそこまで来ています。2月はここの鳥見のベストシーズンですが、去年は雪で鳥見も梅見もできずに残念でした。今年は晴れの好天気を期待していますのでお出かけ下さい。

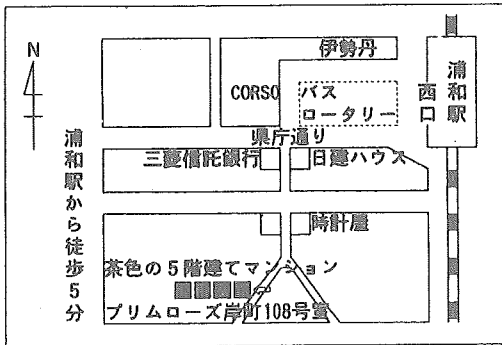
東松山市・物見山探鳥会

期日：2月27日（土）
集合：午前9時30分 物見山駐車場（峠を越えた右側）
交通：東武東上線高坂駅西口より、東武バス鳩山ニュータウン行き8:58、9:08発にて「大東文化大学前」下車、徒歩約5

分（バス進行方向へ峠を越えます）。
 担当：榎本、岡安、藤掛、志村、立岩、後藤、吉田
 見どころ：春のさきがけ探検隊。林の中や野辺の道で、息をひそめている小さな春をさがします。まだ寒い日もあるけれど、春がいくつ見つかるかな？

『しらこぼと』発づめの会

とき：2月27日（土）午後1時～2時ころ
 会場：支部事務局108号室
 案内：昨年1年間で100名余の会員増となり、3000人の大台に乗りました。その分だけこの会の仕事も増加していますが、多くのご協力のお陰で無事にこなしています。会報『しらこぼと』を送送するための宛名貼りと封筒詰めです。新たに会員となられた方もぜひ一度いらしてみてください。



富士見市・柳瀬川探鳥会

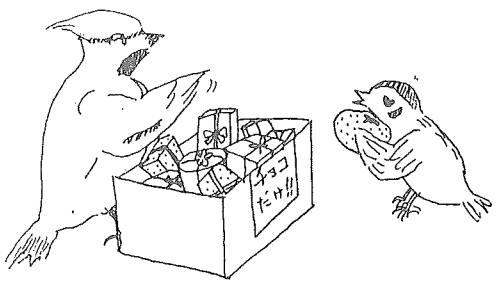
期日：2月28日（日）
 集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅東口前
 担当：高草木、佐久間、石井（幸）、志村、中村（治）、神場、中村（祐）、荒木、下川、村上
 見どころ：田んぼの貴公子タゲリに今回も期待しましょう。カモ達も勢ぞろい。ジョウビタキの飛ぶ姿を上から見て、下の中洲にタシギが日光浴している様子も良いものですよ。木々の新芽も待っています。おでかけください。

岩槻市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月28日（日）
 集合：午前8時30分、東武野田線岩槻駅前。または午前9時15分、文化公園駐車場（国道16号側）。
 交通：東武野田線大宮8:12発、または春日部8:11発大宮行にて岩槻下車。集合後バスで現地へ。
 担当：中村（榮）、中島（康）、吉安、橋口、玉井、入山、松永
 見どころ：前回12月も大好評でした。公園とその周辺を歩きます。川辺には小さな春の気配も感じられます。アカハラ、シロハラなどとの出会いを楽しみに皆で探しましょう。川辺なので風の強い日は寒さ対策を充分に。

浦和市・秋ヶ瀬公園子供の森探鳥会

期日：2月28日（日）
 集合：午前9時15分、浦和駅西口バスロータリー5番バス停付近。集合後9:23発「大久保浄水場」行きバスで「諏訪前橋」下車。
 担当：海老原、福井、楠見、伊藤、小林、倉林、笠原
 見どころ：昨年大雪で中止になったこの探鳥会。今年は？ 子供の森でゆっくりと立ち止まって、近寄ってくるアカゲラ、コゲラ、シロハラたちを待ちます。最後はさくら草公園のバス停に出る予定。



(忍田歳子)

行事報告

11月29日(日) 大宮市 見沼自然公園

参加: 47人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ オオタカ ハイタカ バン オオバン キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) おだやかに晴れた中開始する。途中、上空にオオタカ・ハイタカが出現。初冬の陽ざしの中、その姿は実に美しい。全員でじっくり観察ができた。見沼自然公園の池ではカモ8種を確認。ここはカモたちを間近に観察できる絶好の場所。初心者には大好評だった。参加者47名で過去最高。皆様有難うございました。

(工藤洋三)

12月5日(土) 蓮田市 黒浜沼

雨のため中止。

12月6日(日) 北本市 石戸宿

参加: 43人 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ノスリ コジュケイ キジ バン タゲリ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 前日来の雨も上がり、風もなく静かな日となった。快晴で雲もない。高尾の池はアシの刈取り整備のため、カモが少ない。北里の池の方に引っ越したのだろう。その分をアオジとジョウビタキが救ってくれた。オオタカ、ノスリも舞い、この時期には早いのかとも思うウソも出た。荒川の土手では

タゲリが約25羽ヒラヒラと美しい姿を見せ、皆満足の様子だった。(内藤義雄)

12月6日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 61人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ バン ユリカモメ セグロカモメ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 前日までの雨も上がり、晴れて暖かくなった。種類はそれなりに出たものの、全体的に鳥が少ない印象(特にカモ類)。それでもオオタカが舞うシーンや、カラスがヒヨドリらしき鳥の赤い肉をついばむ場面など全員で見ることができた。おしむらくは、下見で30羽近くいたタゲリが1羽も残っていなかったことだ。(手塚正義)

12月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 46人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ ハヤブサ チョウゲンボウ イソシギ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 快晴のためか参加者が多かった。アカゲラ、アオゲラとの対面を願って出発。遠方の鉄塔のチョウゲンボウ、道路に降りたシメ、ジョウビタキ、カシラダカ等が次々と現われて楽しませてくれた。間もなく雑木林で待望のアカゲラが出現したが、先へ先へ飛び、後方の人は見られなかった。明戸堰上流のコハク

チョウの餌付けの餌にカモ類が集まっているようで、堰の周りは寂しかった。(和田康男)

12月13日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 32人 天気: 晴

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ
ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガ
モ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ
オオタカ コジュケイ キジバト コゲラ ヒヨ
ドリ モズ アカハラ シロハラ ツグミ ウグ
イス キクイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ
シジュウカラ メジロ アオジ シメ スズメ
カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種)
前週の日曜日に続いておだやかな日曜日。その割
には少ない参加者。団体入場できるかどうかとリ
ーダーたちは気をもんだ。西田沼を過ぎたところ
でオオタカが天高く真上に美しい姿を見せる。カ
ラ類の混群も幾組も渡って楽しませてくれた。暖
冬なのだろうか、ツグミたちの声はすれども姿が
なく、見た人もわずか。それにジョウビタキも見
られなかったが、大沼でヨシガモの美しい姿に全
員満足の様子だった。冬の森 やせてあらわな
枝あいに 小鳥は群れて 自在に巡る

(内藤義雄)

12月13日(日) 岩槻市 岩槻文化公園

参加: 54人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガ
モ コガモ ハシビロガモ イカルチドリ イソ
シギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ア
リスイ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シ
ロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジ
ロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ
シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (35種) アカゲラ、カシラダ
カ等の他に超目玉のアリスイまで出現。全員が時
間をかけて見ることができ、大変感動していた。
天候にも恵まれ、風もなく、すばらしい探鳥会日
和だった。

(中村榮男)

12月26日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 22人

赤坂忠一、荒木恒夫、江浪功、海老原教子、海老
原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、篠
原東彦、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、納谷

美月、橋口長和、福井昭子、藤掛保司、藤野富代、
前澤明男、増尾隆、松村禎夫、百瀬修、山野庸子

1月3日(日) 浦和市 さぎ山記念公園

参加: 52人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガ
モ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ
タカsp バン タゲリ キジバト アカゲラ コ
ゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
レイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウ
グイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシ
ラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ム
クドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラ
ス (38種) 下見の時にはコース途中に見当たらず、
今年はついにゼロになるかと思われたタゲリが、
ちゃんといつもの田んぼにいてくれた。逆光位置
から順光位置に回り込んでじっくりウォッチング。
オカヨシガモのオスとメスもゆっくりとお勉強。
ジョウビタキはオスが1羽にメスが2羽。途中か
ら予報を上回る強風が吹き荒れて驚いたが、探鳥
会後の野外懇親会の会場は風もさえぎられて日だ
まり状態。去年よりも更に歌手の数が多くなった
のです。野鳥の会に歌手がこんなに沢山いたとは、
知らなかったな。

(海老原美夫)

1月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 21人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハ
クチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガ
モ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ イソシ
ギ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒ
バリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
レイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウ
グイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシ
ラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ム
クドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種)
新年初の当地の探鳥会だが4ヶ所で開催されたた
めか参加者は少なかった。出発前に、お年玉とし
て、これまでNリーダーが使っていた望遠鏡が提
供された。この思いがけないお年玉は、ジャンケ
ンに勝った初参加の人が獲得し、盛り上がった。
カモ類は種類、数共に少なくてさびしかったが、
近くの木で餌を探す2羽のコゲラ、木のてっぺん
で休んでいるチョウゲンボウがじっくり見られ、
1年のスタートはまあ上々だった。(和田康男)

連絡帳

●訃報2件

【新堂克浩さん】

1998年12月18日、病気のために亡くなられました。享年64歳。

1995年6月に幹事に就任、主に普及部の書類作成など地味な分野で力を発揮し、支部活動を支えていただきました。

【草間和子さん】

1999年1月6日、病気のために亡くなられました。享年61歳。

1984年の支部設立の時から有力メンバーのひとりとして参画、1985年6月に幹事に就任、1995年6月に病気療養のために退任されるまで、主に事業部関係の実務をすべて担当されました。

お二人のご冥福を、心からお祈り申し上げます。

●カスミ網の復活を許さない活動・経過報告

昨年9月号本欄でご紹介した活動につき、本部保護調査センターから、経過報告が届きました。

それによりますと、環境庁の自然環境保全審議会野生生物部会が12月14日に決定した答申には、カスミ網の使用許可権限を引き続き環境庁長官が有することを意味する記述が含まれていて、新鳥獣保護法案が作られる過程の第一段階では、有害鳥獣駆除の際に都道府県や市町村の判断で安易にカスミ網が使用許可されてしまう方向にはないと考え、ひとまず胸をなでおろしているとのこと。

報告には、はがきキャンペーンなどにご協力くださった皆様への、心からの感謝も添えられています。

●おまけの情報コーナー

埼玉県自然学習センター(〒364-0026 北本市荒井5-200、TEL 0485-93-2891)が野生生物フォトコンテストの作品を募集中。

募集期間は2月28日(日)まで。展示期間は4月10日(土)～5月5日(水)。規格・応募方法など詳細は、同センターにお問い合わせ

わせください。

●ごめんなさいコーナー

前月号6ページ「野鳥情報」中、「戸田市西坂戸調整池」とあるのは、「坂戸市西坂戸調整池」の誤りでした。

●2月の事務局・土曜と日曜の予定

- 6日(土) 普及部会議。
- 13日(土) 編集会議、研究部会議。
- 20日(土) 校正作業。
- 21日(日) 役員会議。
- 27日(土) 袋づめの会。

●会員数は

1月5日現在3,042人です。

活動報告

11月7日(土)8日(日)渋谷区国立オリニック記念青少年総合センターで開催された「甦れ!里山シンポジウム」に参加(藤掛保司・海老原教子)

11月28日(土)29日(日)千葉県立流山青年の家で開催された第6回野鳥密猟問題シンポジウムに出席(福井恒人)。

12月13日(日)みさと公園などで開催された三郷市教育委員会主催のみさと子ども大学校で、講師として、三郷の自然とバードウォッチングの基本を指導(山部直喜)。

12月19日(土)1月号校正(海老原美夫)。

12月20日(日)役員会議(司会:大坂幸男、訃報の連絡方法・依頼を受けた探鳥会指導・その他)。

12月28日(月)1月号発送(海老原美夫・倉林宗太郎)。

編集後記

鳥見を始めて、それまで苦痛だった出張が楽しみになった。昨年は、札幌出張で天売島まで遠征した。今春は、水戸出張で、瀬沼のハイロペリカンをゲットした。今月末には広島に行く。インターネットで情報収集をして、出張の準備に今忙しい。(橋口)

『しらこぼと』1999年2月号(第178号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
 インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事は上記ホームページに転載されることがあります。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用